

# 幕末 11人の視点で読む



神田外語大教授 出版

## 渋沢の活躍「日本を体現」

神田外語大学外国語学部（千葉市美浜区）の町田明広教授（日本近現代史）が昨年12月、渋沢栄一ら歴史上の人物11人を取り上げた著書「人物から読む幕末史

の最前線」（集英社インターナショナル）を出版した。11人の視点から幕末（1853～68年）を立体的に描いた。

渋沢栄一（1840～1931年）は明治・大正期に活躍した実業家で、「日本資本主義の父」と呼ばれる。今年7月からは新1万

「人物から読む幕末史の最前線」を出版した町田教授（千葉市美浜区の神田外語大学で）

円札の顔になる。

江戸時代末期、農家に生まれた。一橋家に仕官し、慶喜が徳川15代将軍となると幕臣に。明治時代に役人から実業家に転じ、昭和初期まで生きた。

町田教授は「近世から近代の日本を体現した、まれな人物。その人生を追うだけで日本の歩みがわかり、今を生きるヒントを与えてくれる」と話す。学生たちには「（渋沢は）柔軟な発想と強い意志の持ち主で、新しいことに挑戦し続けた手本。学ぶことが成功につながることを知ってほしい」と求め

る。  
新書判256ページで、920円（税別）。2024年度には同大で、人物を取り上げて歴史認識を養う授業を開講する予定だ。